

日本の戦闘機が遼寧艦の太平洋進出に反応

専門家：情報漏洩防止措置を採った。

2016 年 12 月 27 日 10:05 ソース：人民網一軍事チャンネル

阿部信行

(訳者コメント)

先日の空母遼寧の遠海訓練に関する続報です。
海上自衛隊の艦艇が空母遼寧の編隊に追従し情報収集を行っているが、大丈夫か？と心配する中国国民に対して、心配を打ち消すための記事を紹介します。

人民網北京 12 月 27 日電（記者 黄子娟）

24 日、中国海軍遼寧艦編隊は西太平洋海域に赴き、遠海訓練を行った。例によって日本海上自衛隊艦艇が追従した。日本防衛省は、25 日夜、中国空母編隊が同日沖縄本島と宮古島の間、宮古海峡を通過し西太平洋に向かったことを公表した。軍事専門家は、中央テレビの取材を受けた際に、次のように述べた：遼寧艦編隊の今回の訓練は、空母編隊の作戦を主演練項目としている。日本は、この間使用するレーダー周波数、データリンク、衛星通信に強い関心を持っている。したがって傍受しようと近傍にぴたりと追従した。

25 日夜、日本防衛省は、この前に、東海を航行中の中国空母編隊が同日午前 10 時前後、宮古海峡を通過し西太平洋に入ったことを公表した。同海峡を通過した中国艦艇は”遼寧艦を含め合計 6 艘である”と。

25 日午後、艦載の早期警戒ヘリが遼寧艦に同行する護衛艦から発進した。宮古島の領空から約 10km に接近したところで日本航空自衛隊が緊急発進した。

中国空母編隊の外洋（ブルーウォーター）への初めての進出は、全世界の関心の的である。シンガポールの「聯合早報」及び AP 通信社は、25 日、遼寧艦空母編隊が初めて東海中部海域に出現、日本の領海は侵犯しなかったと報じた。英国「インデペンデント紙」は、中国海軍は、渤海、黄海で空母編隊の実戦訓練をしていたが、計画にしたがってさらに多くの跨海区訓練を行うであろう、と報じた。

日本艦艇が我が遼寧艦編隊の遠海訓練を追跡監視している問題について、尹卓は次のように述べた：日本はここ数年、特に安倍政権になってからひたすら中国を戦略的対象国とし、中国海軍の発展に大きな関心を注いでいる。日本は、中国海軍が強大になることは脅威になる可能性がある」と認識し、前回までの遼寧艦の出航訓練及び一部の通常活動に際しても、日本艦艇は常に追従している。今回の遼寧艦編隊の遠海訓練は、作戦訓練が主であり、過去の技術訓練を主とする訓練と同じではない。遼寧艦編隊が訓練中使用するレーダー周波数、デー

タリンク、衛星通信等は作戦訓練でネットワークを構成する上で不可欠である。これは日本が極めて大きな関心を示し、盗聴しようとする対象である。したがって近傍を追跡するのだ、と。

それでは実戦訓練中、我々は如何にして情報の漏洩を防止すべきなのか？尹卓は：各種電子機器はこのような状況下では全て訓練用周波数を使用する。同時に艦長と編隊指揮官は、周辺で如何なる設備が監視傍受中であるか分かっている。したがって周波数の使用及びレーダー電源を入れる際に情報漏洩防止措置が採られている、と述べた。

今回遼寧艦が遠海訓練を行ったことは、空母編隊として形が整ったことを意味するのか？と質問すると、尹卓は：遼寧艦は今回編隊形式で出港した。これは明らかに空母と艦載機の訓練だけではなく、属艦を含めた武器使用訓練のほうである。例えば、区域防空ミサイル、点防御手段、対潜作戦、対海攻撃等方面の訓練である。編隊はすでに一体となって作戦能力を発揮できるようになった。

遼寧艦編隊の作戦レベルはすでにある程度成熟し、現在の艦載機数が 20 機に満たないものの、1 個戦闘団に近付いている、と述べた。

編集責任者：黄子娟、閻嘉碁

以上